



KOMSA

九州・沖縄医学生をつどい
Kyushu Okinawa Medical Students Association

2017年10月14日から15日に、大分県で九州沖縄医学生をつどいが開催されました。
九州沖縄から64名の医学生、医師、医療従事者が集まり、「協同組織」をテーマに学習しました。

1日目 記念講演

「協同組織で健康づくり」 橋本まゆみ氏
「私たちとキーワード組織」 酒井 誠氏

記念講演では地域に出られて、協同組織としての活動を現場で実践している、橋本氏の講演と医療の現場から協同組織について考えていく酒井先生より講演があり、協同組織の在り方、考え方について話がありました。



班会体験

- ・笑ヨガ
- ・みんなで楽しむ健康体操
- ・高齢者の食事の現状
～自分の食事を見直そう～
- ・口は健康の入口、いのちのいりぐち、オーラルフレイル予防について
班会体験では実際に体を動かしながら、どういった組合員活動をしているのかを楽しく学びました。

2日目 記念講演

「臨床倫理～立ち止まって考えよう～」 榎原真由美氏



臨床倫理の講演では大分健生病院の榎原真由美先生より講演を行っていただきました。実際の医療現場における倫理の問題において、患者が何を望んでいるかという難しい問題をグループ内で話し合い発表を行いました

医学生をつどい

2017年9月30日～10月1日、新潟県越後湯沢で『民医連の医療と研修を考える医学生をつどい』（以下全国つどい）が開催されました。全国つどいは2日間で3回、と3日間1回の年間計4回開催されます。今回は、新潟水俣病やその被害にあった患者に、新潟民医連の医師やスタッフがどう向き合ったか、新潟の地で働く医師が地域医療を志したきっかけなどが紹介されました。



「医学生をつどい」は、全国の医学生が学び、交流する企画です。
3ヶ月に1度開催され、講演会や研修について考える企画があります。興味のある方は、ぜひご参加ください。

○ 今後の「医学生をつどい Third quarter」のご案内

日時：2017年12月23日（土）～24日（日）
場所：静岡県熱海市
内容：「SDH～健康な状態とは何か～」

参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。
申し込み・問い合わせ先

宮崎民医連 医系学生サポートセンター（医学生担当：石川、宮田、松浦） E-Mail: kiyotake-bunsitu@iga.bbq.jp TEL 0985-85-9717

概要

宮崎生協病院の職員は、8/7、8/9に長崎で開催された「原水爆禁止世界大会」に参加してきました。この大会の歴史は長く、1955年8月に広島で第1回目、翌56年に長崎で第2回目が開かれて以来、世界中の人々と連帯して毎年、広島・長崎で開催されています。1945年8月6日AM8時15分に広島市、8月9日AM11時2分に長崎市に原爆が投下されました。広島、長崎ではその年のうちに約21万人もの尊い命が奪われました。その被害にあった市民は、今でもその後遺症に苦しんでいます。1954年3月1日、アメリカが太平洋ビキニ環礁でおこなった水爆実験によって日本国民は三度の原水爆による被害を受けました。ビキニ水爆被災事件をきっかけに、広島・長崎の被害、放射能による惨禍を広範な国民が知り、核兵器の廃絶を求め「原水爆禁止署名」が全国でとり

くまれ、1年余で当時の有権者の過半数3400万に達しました。こうした原水爆禁止を求める大きな国民の声を背景に、1955年8月、広島で第1回原水爆禁止世界大会が、翌56年には、長崎で第2回原水爆禁止世界大会が開かれました。以来毎年、世界中の人々と連帯して世界大会が開催されてきました。

私たちが所属している全日本民主医療機関連合会も平和を守る運動の一環として、毎年代表団を派遣しています。参加するメンバーは主に今年4月に入職した職員達で、彼らにとっては、現地で平和を守る運動に直接肌で触れる、貴重な平和教育の場となっています。



集合写真



会場の様子、長崎市長による挨拶。

私たちは未来に生きる者として、この悲惨さを語り継ぎ、そして平和を担う民医連職員として、未来へ託していく使命を、幾万の御霊に誓い、宮崎へ戻りました。



病院から千羽鶴を折って会場まで届けました。

参加者の感想

医師 合田延大

私は今回初めて原水爆世界大会に参加しましたが、平和な世界を実現するためには、平和を願うだけ、祈るだけではなく具体的な行動が必要であることを学びました。毎年8月になると、戦争や原爆のことを二ユースの特集で見ると、その度に胸が痛みますが、それは一時的なものであって永久に続くわけではありません。原爆に限らず、世界各地で起こる事件や事故、災害は毎日のように報道されていますが、私はこれまでそのいづれからも免れてきた人生でした。私は被爆国の国民でありながら、どこか傍観者であったような気がしますが、被爆者の方々は戦後72年間、絶えず辛い記憶と向き合いながら、過去を過去のものとせず、核兵器のない平和な世界を目指して日々努力を積み重ねており、今なお続いています。原爆投下後72年が経ち、ようやく国連で採択された核兵器禁止条約はその努力の賜物であり、全国から集められた折り鶴や世界中で行われているヒバクシャ国際署名もすべて、「1」を足し合わせた結果、大きく出来るものです。核兵器のない平和で公正な世界の実現のために、その「1」となる努力を惜しまないことを誓います。

事務 黒木貴洋

私が生まれて25年間平和な世の中が続き、今後も当たり前と同じような世の中が続くであろうと思いついてきた。しかし現在の平和は戦後の反省の下にあり、今後も日本や世界が平和であるには悲惨な戦争体験を後世に伝えなければならぬということや、今回の世界大会に参加して感じた、分科会では現在の核兵器を持つ国が考えている「抑止論」的な考え方が進んでいるからだという。やられたらやり返せるよう準備し相手から攻撃させないようにするこの考え方はいつか崩壊してしまう効きすぎる薬であるようだ。そこでこの「抑止論」に対抗するには、「やられたらやり返す」とはいえ、けれど広島・長崎のような悲惨なことを再び起こしたらいけないよね」と実際の体験を発信していくことが大切だということ。私は今後も平和が当たり前に続くよう今回学んだことを出来るだけ多くの人に伝え、脱抑止論へ突き進むよう願う。

原水爆禁止世界大会 2017 IN 長崎

